

## 今年の教区の目標

いのちの輝きは  
聖性の光  
救いの泉

〒902-0067 那覇市安里3-7-2

カトリック那覇教区本部

TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474

発行人 W.F.バート司教 1部40円

<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2024年6月1日 (毎月1日発行)

カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ

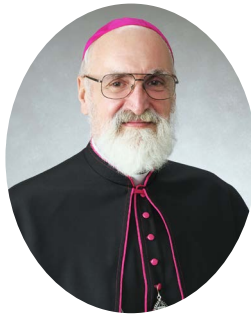
第787号 (6月号)

A



二〇二四年平和メッセージ  
神のまなざし

しまんちゅ  
島人の目線



カトリック那覇教区  
ウェイン・F・バート司教

### ―島人のまなざし―

碧い海、青い空。遠い彼方を見つめるまなざしは、まるで見えない世界を見ているかのよう。島人の目線は、狭い地上ではなく、無限に広がる海のかなた、空のかなたにいつも向けられている。まるで見ることでできない海のむこうからやってくる何か良きものの訪れを待っているかのように。

小さき島での生活は、他所とのやり取り、交易によって豊かになり、成り立ってきました。こうして、交流を大切にする文化が育まれ、他所とのつながり、他者との信頼が何よりも大切にされる島社会が形成されたのでしよう。「万国津梁(ばんこくしんりやう) (万国を結ぶ懸け橋)」という言葉もこうした経

験から生じた自らの理想像と言えるのでしよう。

またこのような目線で他者の見る沖縄の視点は、「いちやればちよーでー、ぬーぬふいだていぬあが」(出会えば兄弟、何の隔たりがあるのか)というホスピタリティ溢れる黄金言葉をも生み出しました。それは、周囲を海に囲まれた小さな島という環境によって培われ、与えられた賜ものなのかもしれません。

このように友好的な、誰をも兄弟姉妹として迎え入れる文化は、時として、特に悪意に対しては無力であるかのように思われがちです。それゆえ、侵略や敗北、また被支配への恐れから他の多くの国や地域が武装し、暴力的な手段を選択するのです。しかし沖縄は、凄惨な地上戦の戦場とされ、戦後のあらゆる苦難を経てもなお、「いちやればちよーでー」の精神を保ち続けています。

どんなに敵対し、搾取し、支配し、すべてを奪おうとする相手にさえも非暴力の抵抗を貫いています。それは、人間としての弱さを認めることからくる相互扶助の精神とそれに基

づく他者尊重の表われなのです。

このように私たち人間が他者を必要とし、他に頼らなければならぬ存在であるならば、それを認め、他者と協力して共に生きることを目指すのか、あるいは自己の必要性を満たすために力づくで他から奪い取るのかの選択を迫られる存在でもあると言えるのでしよう。

### ―誰のための平和?―

平和・共生・協調の理念は、すべての人の共通の普遍的な願いであるはずなのに、同じ理念を目指しながらも、一方は他者の存在を必要とする立場から「対話」を選びますが、他方では同じ平和を理由にして、自己防衛のために「武力」を選択しています。

「自分達の安心・安全」だけを平和と考え、これを守ろうとすることがエスカレートすると、更に悪いことに「自分たちの平和」を守るための戦争は、自分たちには被害の及ばない他の場所を選んで行うようになり

ます。いのちと存在を破壊する戦争、しかもそれが一部の地域、一部の人間が犠牲となるように仕向けられた戦

争ならば、これはもはやジェノサイドと言わざるを得ません。

一部の人間の犠牲を前提としてい

ることを覆い隠すのに都合のいい言葉があります。「防衛」という言葉です。

しかし、一地域の犠牲を前提とする「防衛」とは、いったい誰を守っているのでしょうか。何を守っているのでしょうか。

「攻めなければ攻められる」防衛論が一見正論のように思われがちですが、それは、戦禍が及ばないように守られた安全な場所にいる人々の理論です。戦場とされる場にいる人々の視点に立てば、有無を言わずに苦難と死を無理強いする凶悪な考えであることは明らかです。

### ―沖縄の視点から―

かつて戦場とされた沖縄の視点からすると「攻めれば、必ず反撃される」「武装こそが武力行使を招く」のである、九十九%の国民を守るためには、1%の人間の犠牲は致し方ないと言

う考えは、とんでもない暴論です。実際、九十九・四%の国土(沖縄県以外の地域)を『守るために』国土の〇・六%の県土は、国策によって敵国に差し出され、そして今も供与され続けています。さらにこれに加えて、今度は中国を念頭にかつて

(二頁へ続く)

の敵国同士が結託し、再び沖縄を武装強化し、戦場にする準備が始まっています。

ミサイル攻撃が主流の現代の戦争では、どんなに『守備』を唱えても守りようがないことは誰の目にも明らかです。それでも沖縄に軍備を増強するのはなぜなのでしょう？ 最初の攻撃を避け、戦争の始まりを察知し、本当に守りたい多数者への犠牲を軽減するためではないでしょうか？

強大なミサイル攻撃に東京も大阪も福岡も何処も安全な場所ではないはずなのですが、どうしてそこに迎撃システムは配備されないのでしょうか？ それはそのような軍備がなされた場こそが最初の標的となるからです。ミサイルはミサイルの呼び水です。そのようにして大都市へのミサイル攻撃を遅らせるため、あるいは躊躇させるため、あるいは戦略、策略の手段とするために沖縄とそこに住む人々をまるで道具のように扱うことは、誰にも許して許されません。

なぜなら沖縄のすべては、日本・中国・米国、あるいは世界中のあらゆる国や地域と同じ価値と権利を有しており、その存在は誰によっても侵害されてはならないからです。すべての人が自分の町にミサイルが置かれ、そのことで標的に

なると考えてみるべきです。強制的に危険な状態に置かれることを自分事として、当事者として考えるべきです。沖縄の視点から、防衛力強化の実相を見るべきです。

### ― 神のまなざし ―

私たちが「父」と呼ぶ神様は、すべての人の『父ちゃん』です。だから、あなた方は兄弟姉妹として「自分のように互いに愛し合いなさい」と命じる「いちやりばちよーで」の神様ともいえます。その父である神は、「一匹の見失った羊を捜すために、他の九十九匹を置いて出かける」神でもあります。九十九%を守るために1%を犠牲にするお方ではけつしてありません。

神のまなざしは、常に助けを必要とする者に向けられ、いのちが失われないよう、弱きものを探し求めています。そして、弱きものの立場に立つて寄り添い、必要な助けの手を差し伸べようとなさっています。

世界各地の戦争・紛争を沖縄の視点で、そして神のまなざしで見えてみましょう。そこにこそ解決の糸口は見出だされるはずで、仕方ないで済ませないでください。戦争によっていのちを奪われ、脅威にさらされ、苦難を強いられてい

る人の立場から考え、その立場に立った選択をしましょう。あなたのその選択こそが、永く続くすべての存在を支えるまことの平和をもたらし神の手となるのです。

そして、この沖縄の地に眠るす

べての霊の声に応え、すべての存在と共に、まことの恒久平和を祈り求め、あらゆる戦争行為を止めるため、決して諦めることなく完全な武装放棄に向けて行動することを誓いましょう。



## カトリック文化センターからご案内

本年1月2日、急性骨髄性白血病のため東京都内の病院で逝去された聖書学者の太田道子さん。1932年生まれ、91歳でした。東京女子大学、ルーテル神学大学院（アメリカ）、ヘブライ大学（イスラエル）、教皇庁立聖書学研究所（ローマ）、超教派高等神学研究所（エルサレム）を経て、『聖書 新共同訳』の最終編集委員として刊行のために寄与されました。古代オリエント史・旧約聖書学専攻。

晩年、太田さんを囲んで、聖書の勉強会を続けて来られたカトリックの神父様から連絡を頂き、太田さんが蔵書の1部を寄贈するので、沖縄の人々のために役立てて欲しいとの要望があったそうです。ダンボール箱7箱分の蔵書が送られてきました。文化センター会議室の本棚に展示してあります。どうぞ手に取ってご覧ください。

●キリスト教関係の書籍、宗教用品等のご用命は、「カトリック文化センター」を通してご注文下さるようお願いしております。

〒900-0005 那覇市天久 1-8-7 電話・Fax 098-868-4649

## 6.23 平和巡礼について

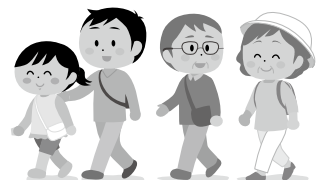
巡礼が主日、日曜日に当たるため、下記のように執り行います。

巡礼前の平和祈願ミサ：午前6時からウェイン司教主式、小禄教会にて。

巡礼出発：午前7時

途中、休憩と祈りの集会をを持ちながら、魂魄の塔へ向かいます。

魂魄の塔：昼12時に「教区平和委員会」の主導で祈りの集いを持ちます。



## Interview at the Catechism Class, Asato Catholic Church

This is an interview with an attendee from Yomitan Catholic Church (YCC).

**Interviewer:** What inspired you to attend the Catechism Class and how do you deal with the Japanese language barrier?

**Attendee:** For inspiration, I follow the words of Pope Francis. He said that to share God's love with the world requires action and service. And that we cannot just sit around and wait for other people to fulfill our vocation. Love is dynamic, it goes out of itself. The person who loves does not just sit in an armchair watching and waiting for the world to improve. Instead, he or she "with enthusiasm and simplicity gets up and goes. I consulted the YCC Japanese parishioners about Pope Francis' words and some immediately volunteered to attend the catechism class. To deal with the language barrier, I video record each session. And upload it to YouTube under the name "Isa Nago" so that anyone can watch it. After I hear it a few times I can understand it better.

**Interviewer:** What did you learn in the Catechism Class?

**Attendee:** In addition to formal presentations I have learned that Japanese Catholics have a very deep faith. They love Jesus very much and will do His mission to spread God's love (words) to others. We pray that all the churches in Okinawa act in unison and be like Yonabaru Catholic Church and have a Gospel ministry coordinator to help the Parish Priest lead God's mission. The catechism classes are about the story of Catholic, the Jewish and the Islamic religions. In addition are lectures on reading the Bible, the role of the Holy Spirit, about the birth of Jesus and his upbringing. And Sr. Nakamura's lectures that reflected the words of Pope Francis that I spoke above.

**Interviewer:** What improvements do you think are needed to enhance the Catechist Class?

**Attendee:**

- Since the Japanese Catholics have a deep faith and are ready to share God's love to others, the lectures should focus on sharing God's mission like what Sister Nakamura is already doing.
- The lecture should come with written materials. They should not be more than one hour. They should focus on the Catechist required knowledge for teaching catechumen about baptism, confirmation and first communion.
- Questions and answers should be limited to 30 minutes or less and another 30 minutes for group sharing.
- Sharing should focus on some problems in Okinawa about evangelization. Such as, no one answers the church's phone when someone calls; not having a Japanese mass always; no action for Gospel ministry in order to increase the number of Japanese Catholics; evangelization around each church's neighborhood and a lack of empowerment of the Japanese community to take responsibility for their church.
- Put emphasis in the church work for God's love to Japanese people.
- Foreign Catholics should be allowed to have English masses if they are needed. They should come to understand God's mission in Okinawa.

Attendee: Mr. Ben Kogachi    Interviewer: Mr. Shimobe

## 洗礼と堅信おめでとうございます！

### 開南教会

日時 3月30日（復活徹夜祭）

ヨハネ                      シャイヤステ    伊織  
幼きイエズスのテレジア    宮里    利津子

### 名護教会

日時 5月12日（司教訪問にて）

洗礼者ヨハネ                      比嘉    悠月  
ロヨラのイグナチオ    比嘉    海空虹





## 私たちは奉仕のために 造られている

サニー・カンティラーノ神父

具志川教会 主任司祭



汚れなき御心も、使徒聖ペトロ、聖パウロの祝日と同じく、今月の典礼行事に含まれます。

六月の暦には多くの重要な祝典がありますが、最も重要なものは、主への奉仕の内にある私たちの存在です。私たちの体である教会の存在、毎週の主日に与る、典礼の義務

みになりました。私たちに必要である重要な美德の中で、典礼への出席、努力、義務の怠慢を克服するために、私が意図しようとすることは、出席の質を向上させ、神様を知り、また自分自身を知るという理解を深めることです。私たちに与えられる手段は多くあるかもしれませんが、教会のあらゆる祝典や集会に出席する意欲を支えるには、私たちの体と神様について恩寵を受けたという知識があれば十分でしょう。

私たちの祈りの質は、神様の祭儀の交わりに費やす時間の質と同じものです。おそらく私たちは、教会の礼拝で祈りに費やす時間の質に疑問を抱くかもしれません。多くの場合、一日中休んでスポーツをしたほうが良いのです。しかし、主が私たちに疲れられるように、私たちも疲れれるのではないのでしょうか？ 自分の人生を振り返ってみると、多くの失敗がありました。イエス・キリストが同伴者として共に旅をしてください、司祭としての旅が私が続けるために、私は謙遜になるしかありません。神様にお会いするために、自分自身、時間、才能を謙遜に捧げ、私は毎日、神様が促される自分の良いものを自問しています。主イエス様が私たちのために捧げ

られた犠牲に比べれば、十分ではありません。しかし、家族、地域社会の欠乏や貧困の只中で、それでも私は喜んで出費し、また喜んで用いられるのでしょうか？

私たちの内に神様を見出し続けるための忍耐の努力は非常に重要です。現代の新しい世代や若者世代は、私たちに神様への道を示してくれる模範、霊感、善良な人々を捜し求めています。私たちの主は何年もの間待ち焦がれて、そして今もなお十字架の上で待ち続けてくださいます。主は私たちを抱擁しようと、その両腕を大きく開いておられます。私たちが待つのに疲れておられません。その時間と努力は、私たちへの、そして私たちの次の世代の人々への賜物です。主は私たちに、愛、忍耐、赦し、そして喜んで私たちが受け入れる意志を共同体、教会で捧げてくださいます。

主の継続的な支えは、兄弟姉妹の間に平和、喜び、優しさ、そして一致を見出すことを求め、切望しているすべての人のためのものです。病院、刑務所の独房、共同体の外、さらには海の中、上空、隔離された空間と時間を訪れるなら、今、疲れ、怠惰になり、非生産的になるには時間が短すぎるかとわかります。怒り、狂い、妬

むには、時間があまりにも短すぎるのです。私たちに起こるすべてで、私は、神様の現存を待ち望み、願ひ求めるすべての人に捧げることができるのは、私の賜物私の司祭職なのです。私たちが抱えているすべての問題に対する答えは、私ではなく、イエス・キリストだけです。イエス・キリストを私たちの心の奥に見ることが、すべての人に、私が提示できる最善で、絶対的な答えになるでしょう。

今ここで、私たちが旅を続け、探索し、神様に祈りを捧げるとき、あらゆる問題の真理と意味を見出すために、イエス・キリストは私たちに具体的な解決策を提示してください。司祭職において、イエスをすべての人に伝えることができる奉仕と預言的ビジョンは、私たちが神様を探求する時に適切かつ時宜を得た解決策になるでしょう。私たちが今も、またいつも違いを実感できるのは、謙遜な祈りの奉仕、時間と行いの努力を捧げることです。真の奉仕と変化が地域社会で、さらには働きに関連した環境で起こるのは、私たちの中に平和、一致、喜び、愛を見出すことができる自分自身の中です。

二〇〇二年六月十五日は私の司祭叙階記念日でした。そして今、六月で司祭叙階二十二周年を祝います。三年先には、司祭職の銀祝ですが、おそらく、その時の恵みと知恵に達するには、更に祈り、多くの奉仕の働きを積み、神様からの恵みが必要なのでしょう。でも、今、私はより樂觀的で、わくわくしています。六月は、コルブス・クリスティ、イエス・キリストの御体と御血を祝う月なのです。また、イエス様の聖心をお祝いします。祝福されたマリア様の

に出席することは非常に必要であり、埋め合わせの出来ないものです。二番目は、祈りの奉仕です。私たちを神様に結び、また共同体と結びつけてくれます。三番目は、奉仕の内の忍耐、あるいは私たちの内に神様の現存を喜んで見ようとする意志です。そのおかげで、私はこの記事を書くのがより楽し

## 2024年5月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時: 2024年5月7日(火) 10:00~12:00 於・安里教会ホール。  
聖母月に当たり、会議の前に全員でロザリオの祈りが唱えられた。

### 1. 報告及び連絡事項: 司会はブイ神父が担当。

- ・ウェイン司教が初めの祈りを行って開式された。
- ・前回(4月会議)の報告を新田が行い、承認された。
- ・出張、休暇、研修等の不在予定
  - ー4/4~6/4、マキシム神父、休暇でインドへ。
  - ー5/7~5/21、ピーター・チェ神父休暇でベトナムへ。
  - ー5/14~6/14、デニス神父、休暇でインドへ。
  - ー5/9~10、ウェイン司教、日本カトリック神学院開校感謝ミサ・祝賀会・学院司教会議のため東京へ。
  - ー5/23、ウェイン司教、正義と平和協議会出席のため東京、潮見へ。
- ・ウェイン司教から日本司教団がローマへ赴き教皇と謁見したアド・リミナについての報告が行われた。司教団のスケジュールは細かく決められていて移動も大変だったが、教区が抱える基地などの問題について、少し教皇様に報告することができて良かったと思う。
- ・4/28日に行われた教区に於けるシノドスの集いについて、担当のマイケル神父から報告が行われた。各小教区と修道会から60名余が集まって意見を述べた。マイケル神父が皆さんからの意見を集約して、各小教区の主任司祭と信徒代表宛に送るので、信徒の皆さんにも分かち合ってくださいよう要請が行われた。
- ・シノドスの集いの会場が急遽開南教会へと変更になったことに関連して、安里教会主任のフランシス神父から、教区センターの利用頻度が高くなり、小教区の主日の活動のための使用も制限される事態が起きている。安里小教区に配慮し、近隣小教区の利用などにより負担を分散し、軽減することが提言され、了承された。また、活動体は、主任司祭と連絡を密にして会場使用の調整を図り、施設や備品の使用に関しても、大切に扱うよう要請があった。
- ・召命の集いについて、マイケル神父から報告が行われた。与那原教会を会場に集いを行ったが、10名前後の参加者に留まり、寂しく感じた。教区の召命は大きな課題であると思うので、司祭たちにはもっと意識して、積極的に子どもたちの参加を促して欲しいとの要望が述べられた。
- ・大分教区で行われる3教区司祭たちの合同黙想会について、津波古事務局長から説明が行われた。6/4、午後4時に現地集合。アルバ、ストラ、教会の祈りを持参。切符も各自で購入するよう案内が行われた。留守中の小教区の対応を、修道会司祭たちに個人で要請して出かけられるよう注意が促された。
- ・浦添のフィアット修道院について、泡瀬への移動が完了したので、建物の管理点検等を最寄りの首里教会主任司祭ボスコ神父に依頼したことが報告された。日常的に使っていない建物であっても宗教法人が所有する土地、建物の管理責任はウェイン司教にあり、その使用は宗教活動に限られているので、注意が必要であることが津波古事務局長から報告された。
- ・その他、  
カトリック神学院から司祭叙階金祝、銀祝、ダイヤモンド祝に該当する方は報告くださるよう要請が来ていることが伝えられ、今年は該当者がいないことが確認された。

### 2. 審議事項

- ・2025年聖年について、ウェイン司教から説明が行われた。ローマでの行事日程表の日本語訳が提示され、聖年の間に行われる様々な行事や取り組みを確認した。那覇教区での関連行事については、ヨアキム神父を委員長として実行委員会を組織し、日本の司教団の意向も踏まえつつ、教区としてできることを検討し、取り組んでいくことが了承された。
- ・6・23沖縄慰霊の日について、ウェイン司教から報告が行われた。今年は日曜日に当たるため、各小教区は主日のミサを優先しなければならない。そこで、今年の平和巡礼は、有志による希望参加者で例年通りに小禄教会での早朝ミサを捧げてからスタートとする。但し、平和委員会のメンバーたちは魂魄の塔での平和の集いの準備と進行のみに注力するため、平和行進は津波古事務局長と新田さんが担当し、組織的なものとしてではなく、個人的な“平和への歩み”として従来の様式に則り、実施することとした。
- ・サマーキャンプについて、担当のブイ神父から報告が行われた。8/2~4日小学生、8/9~11日中高生の日程で準備していくことと、テーマは青年たちと相談して、「祈り・・・未来に向かって」と決まり、準備を進めていくことが報告された。

## 第 55 回 (2024 年) サマーキャンプのお知らせ

### テーマ：『祈り・・・未来に向かって』 Praying for our tomorrow

#### 日 程 (Schedule)

- ★小学生 (小学生 3～6 年生) : 8 月 2 日 (金) ～ 8 月 4 日 (日) (Elementary: August 2-4)  
受付 (Opening) : 13:00 ～ / 解散 (Closing) : 12:00
- ★中学 / 高校生 : 8 月 9 日 (金) ～ 8 月 11 日 (日) (Junior/Senior High: Aug. 9-11)  
受付 (Opening) : 13:00 ～ / 解散 (Closing) : 12:00

場 所 (Place) 那覇教区ミッションビーチ (恩納村) (Mission Beach)

#### 参加資格 (Participants)

カトリックの洗礼を受けていること (原則、初聖体を終えていること)  
(Received the Sacrament of Baptism; Received the First Communion)

#### 参加費 (Participating Fee)

小学生 : (Grade School) 1,000 円 中高生 : (Junior & Senior High) 1,500 円

\* 参加費はお返しできませんのでご了承ください。

(Once the registration form is received the participating fee cannot be returned)

#### 申込み期間 (Registration Period)

2024 年 7 月 20 日 (土) \* 締め切り厳守

2024 July 20 (deadline of submission)

#### お問い合わせ先 (For Inquiry)

ヨセフ・ブイ神父 (Summer Camp Priest In-Charge: Fr. Joseph. BUI)

Cel. 080-3995-1909 (携帯)



#### 7 月 15 日 (月) ヘルパー研修会 (安里教会) 10 時～

July 15th Helpers training, Asato Catholic Church, from 10AM

#### 7 月 28 日 (日) : 大掃除 13 時から～ (現地集合をお願いします)

July 28th General cleaning will be started from 1PM



ブイ神父の LINE  
QR コード

※参加申込書に必要事項を記入の上、所属教会主任司祭にご提出ください。

※当日朝、体温測定を行っていただき、体調に不安がある方は、参加を御遠慮くださいますようお願いいたします。

※黙想の家までの送迎については各小教区単位で対応することになりました。

#### 主任司祭へお願い (サマーキャンプへの参加、ヘルパーとしての協力を呼びかけてください)

今年もサマーキャンプを迎える時節となりました。今年は感染予防対策をとった上で 2 泊 3 の日程で実施することに致しました。子供達が普段会うことのできない他教会の仲間達と出会い、活動する中で絆を深め、喜びの中で神様について学ぶ良い機会です。大勢の子供達の参加で、有益な体験となることでしょう。ふるってご参加ください。サマーキャンプに参加する子供達の安全と指導、助けとなるヘルパーの皆様の御協力を必要としています。経験・未経験に関わらずご応募いただき、実り多いサマーキャンプとなりますよう、御協力宜しくお願い致します。



## カリタス沖縄「傾聴カフェ」はあなたとともに

今年1月と2月に傾聴カフェの開催のためにボランティア養成講座が文化センターであり、ウエイン司教様からテキストを用い、真剣な眼差しで、聖書のたとえ話とユーモアを交えた講座を受講しました。

自分の経験から憶測したり、忠告や議論はせず、言葉ではなく、相手の表情や態度からもメッセージを読み取るように実践を交えて学びました。

受講後はボランティアができるかどうか不安を感じつつも、お互いに確認することがらや来てくださる方への配慮等をメンバーで共有し準備をしました。

4月と5月、文化センターで傾聴カフェボランティアが開催されました。5月19日(日) 聖霊降臨の主日の傾聴カフェには話を聴いてほしい方、どのようなカフェなのかしらと関心を寄せて来てくださった方や皆さんに豊かな聖霊の働きを感じられました。一人ひとりの人格と多様性を大切に、これからも宗教を問わずすべての方を待っています。(英語可能)

あなたが誰にも言えなかったこと。言葉にできなかった想い。聴いてもらいたいことを30分程度聴かせて頂きます。あなたをお待ちしております。(やまぐちかよこ)

カリタス沖縄担当者：マーシー・クリストバル  
会員一同



### 30分間 傾聴カフェ

開催日：2024年6月16日(日) 14:00~16:00

2024年7月21日(日) 14:00~16:00

場 所：カトリック文化センター

## カリタスジャパン TOGETHER WE 写真展 in 沖縄



開南カトリック教会

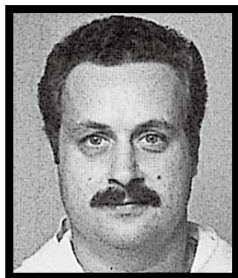


小禄カトリック教会



2024年度  
那覇教区女性の会  
第50回総会

2024年6月16日(日) 14:00  
安里教会



## 故ローランド神父の追悼ミサ

先日訃報にてお知らせしました通り、カプチン・フランシスコ修道会士ローランド・ディーグル神父は、ニューヨークの病院において、5月7日に帰天されました（享年 72）。故人は、30 年の長きに亘り沖縄でお働きになり、沖縄における福音宣教の一端を担われました。この修道司祭である宣教師を私たちに遣わしてくださった神に感謝を捧げるため、また故人への哀悼の意を表し、永遠の安息を祈り求めるため、共に追悼と告別の祈りを捧げましょう。なお、一刻も早く哀悼を捧げ、故人の永遠の安らぎを共に祈りたいのですが、これを主宰するカプチン会の責任者マキシム神父が不在のため、その帰任を待って追悼ミサを下記の通り、執り行うことといたしました。悪しからずご了解ください。

記

故 ローランド・ディーグル神父 追悼ミサ

場所：那覇市田原 59 カトリック小祿教会

日時：2024 年 6 月 15 日（土） 午後 2 時～3 時

### 訃 報

#### ◆ 開南教会

パウロ 山里 善市 様

2024 年 5 月 27 日 帰天 享年 90 歳

### 那覇教区子どもと

### 女性の権利を擁護するデスク



相談窓口 ☎098-863-2020（火・水・木 13:00～17:00）



### NPO 法人ぶどう園の会

### 訪問看護ステーションクララ

TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日～金曜日（申込、相談など）

・営業時間 8:30～17:30

・営業日 24時間365日（緊急対応含む）

6月

一日黙想会へのご案内

講 師：ウェイン・F・バーント司教

テーマ：聖書に親しむ

日 時：2024年6月8日（土） 受付 9時30分

10:00～11:00 講話

12:00～12:45 昼食

13:00～14:00 ミサ

※持参するもの 聖書・弁当・飲み物・会費500円

聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会

電話：098-945-2354 098-945-8649



葬祭の  
「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里烏堀町4-57-3

TEL&FAX:098-885-8205

<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>

E-mail: yasurai@nirai.ne.jp

24時間  
受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～  
そうてんしゃ

## 葬 典 社

\*創業30数余年・・・。

\*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。

\*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひ が たかしげ  
（実務担当）比嘉 高茂

24時間  
受付

てんごく

☎098-853-1059

